

学内広報

for communication across the UT

<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>	<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>	<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>	<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>	<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>	<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>	<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>
<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>						<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>
<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>						<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>
<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>						<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>
<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>	<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>	<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>	<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>	<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>	<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>	<p>AED 自動体外式除細動器</p>  <p>設置しています</p>

特集：環境安全本部、学内にAEDを配置！

— 【保存版】救急救命マニュアル—



2007.5.30

No. 1358



1 倒れている人をみたら、どうしますか？

通勤・通学中など、目の前で倒れている人がいたら、このようにしましょう！

最近のニュースでも、JR総武線の乗客や春季高校野球大会の球児が、AEDの使用によって一命を取り留めていることが報道されています。

心肺蘇生法の手順

1. 意識の確認 2. 救急車、AEDの依頼

「大丈夫ですか」
など3回呼びかける。
肩（鎖骨のあたり）を
叩き、痛み刺激を行う。

「だれか来て下さい」
大きな声で応援を呼び、周りの人に
「119番で救急車の手配を
お願いします」
「AEDを持って来て下さい」
と依頼する。
(学内の場合は、警備室にも
一報を入れてもらう)



3. 気道確保、呼吸の確認

指先であごを上に向けて、
空気の通り道を作る。
傷病者の口と鼻を耳に
近づけ、普段どおりの呼
吸であるか確認をする。
(5～10秒以内)



↑ フェイスマスク QQマスク

← フェイスシールド RESCO-R

＜人工呼吸時の感染防御器具＞

フェイスシールドやフェイスマスクは感染防止に有効なマスクです。傷病者の嘔吐物などが救助者に触れないような工夫がされています。

※救命講習会時に配布されます。

4. 2回の人工呼吸 (省略可能)

気道確保を行い、鼻をつまんでゆっくりと(1秒かけて)2回息を吹き込む



5. 胸骨圧迫、人工呼吸

(注意) 中途半端な対応は傷病者の命取りになります!

- ① 服を脱がせ、乳頭と乳頭の間、手のひらの付け根を置く
- ② 1分間に100回のリズムで30回胸骨圧迫を行う。
(4～5cmの深さで圧迫)
- ③ 気道を確保し、ゆっくりと強く2回人工呼吸を行う。
(1回に1秒)
- ④ 30回の胸骨圧迫と2回の人工呼吸を5セット行う。
(約2分間)



資料提供：日本光電

このたび、環境安全本部では学内にAED（自動体外式除細動器）を配置しました。そこで、今回の特集では、突然、心停止してしまった人を助けるための「救急救命マニュアル」と組み合わせる形で、AEDの使い方とその設置場所をご紹介します。（順次、増やしていく予定です！）

2 AEDで、だれでも簡単に救命活動ができます

AEDとは？

「自動体外式除細動器」と呼ばれており、Automated External Defibrillatorの頭文字を取ったものです。

突然、心停止状態になった傷病者の心臓に電気ショックを与えて、正常な脈拍を取り戻させるための医療機器です。

2004年7月から、医療従事者以外でも使うことができるようになりました。

音声メッセージの案内に従って操作するだけです。だれでも簡単に使えます。



<AED使用時の留意点>

- ★解析中・放電時には、傷病者に触れないこと
- ★傷病者が回復しても、救急隊到着までは、電極はつけたまま、電源ONの状態を待つこと

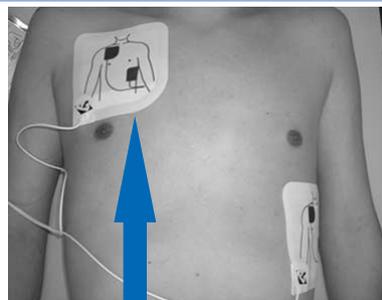
取り扱い方法は？

A. フタを開ける （自動的に電源ON）

フタを開けた後は
音声案内に従うだけです。

B. 電極を貼る

自動的に心電図
の解析を始めます。
除細動が必要な
場合は充電が始ま
ります。



C. 放電ボタンを押す

6. AEDが到着次第、 使用開始！



6 AEDで電気ショック
※傷病者から離れましょう

電極を貼る場所に注意！
パッドに描かれたイラストの位置に。

AEDの取り扱い方法を含めた救命講習会は
環境安全本部で、定期的に学内で実施しています。



2006年7月11日
救命講習会



2006年11月29日
体験型防災訓練

AED

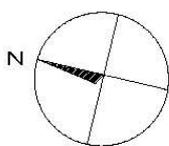
自動体外式除細動器



設置しています

AEDはこんなところに設置されています！

目印は
このマーク
※実際のマークは
赤い色です

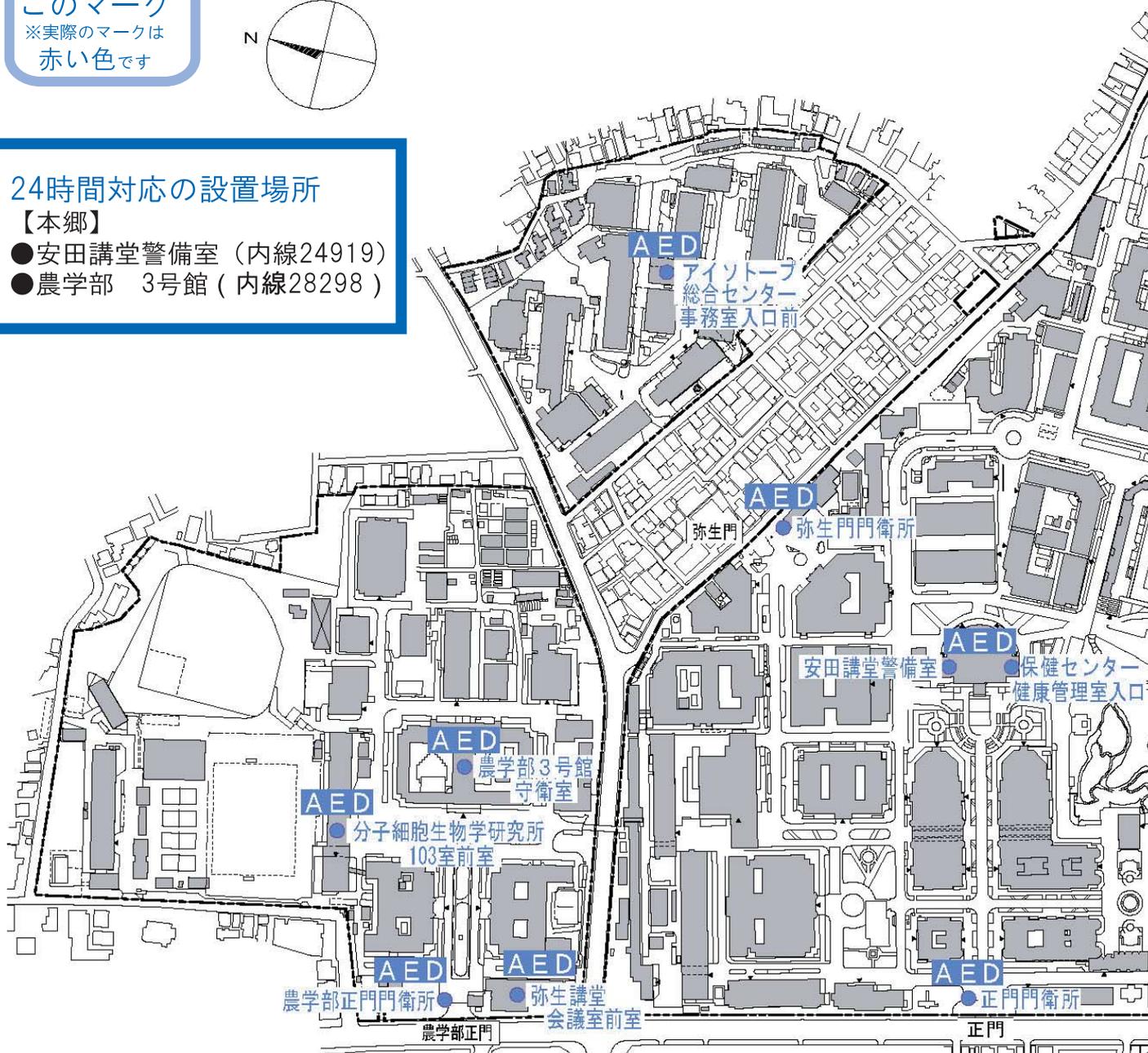


本郷キャンパス AED設置MAP

24時間対応の設置場所

【本郷】

- 安田講堂警備室 (内線24919)
- 農学部 3号館 (内線28298)



AEDは本郷キャンパス・弥生キャンパス・浅野キャンパスに計26台、設置されています。

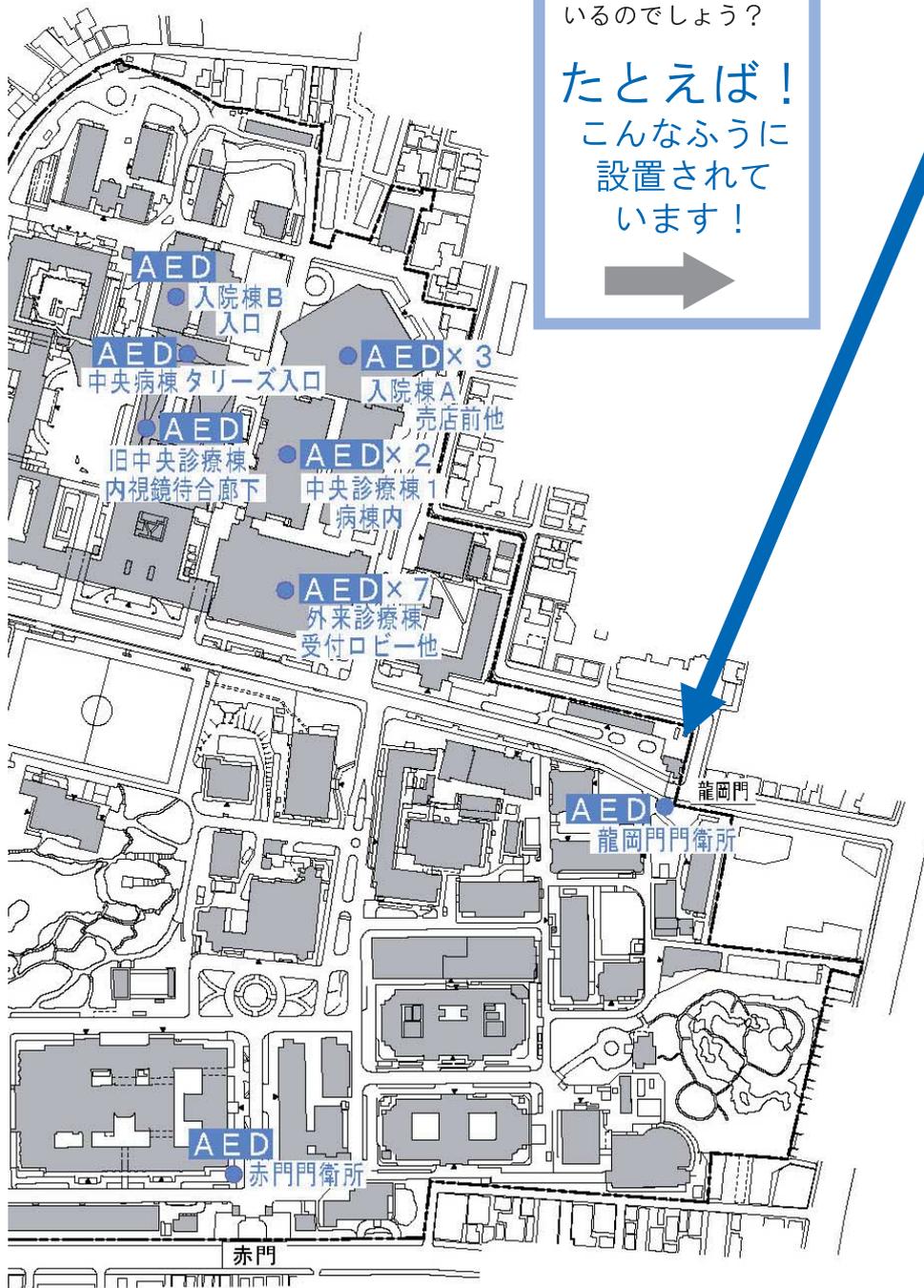
設置場所は下のマップの通り。

本郷キャンパスでは、附属病院に15台、保健センター健康管理室入口・安田講堂警備室に各1台、龍岡門・赤門・正門・弥生門の各門衛所にも1台づつ。弥生キャンパスでは、農学部正門門衛所、農学部3号館守衛室、弥生講堂会議室前室、分子細胞生物学研究所103室前室に各1台。浅野キャンパスではアイソトープ総合センター事務室入口前に1台……。いざというときのために自分の職場に一番近い設置場所を覚えておきましょう！



では、AEDはどんなふう
に設置されて
いるのでしょうか？

たとえば！
こんなふうに
設置されて
います！



龍岡門門衛所



龍岡門の脇の門衛所です。ドアに見覚えのあるステッカーが……。



あ！部屋の壁に見慣れぬ四角い箱が設置されています！



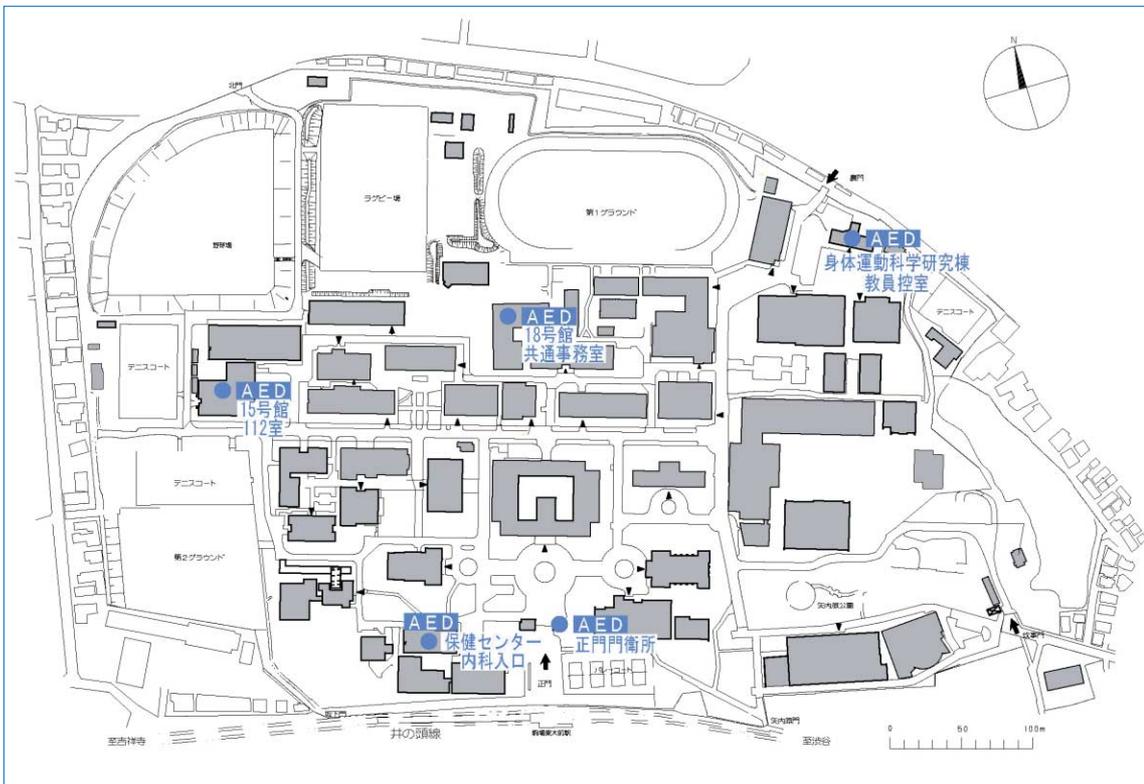
ありました。これがAEDです。



もっと近づくとこんなかんじです。

皆さん、よく覚えておいてくださいね！

駒場Ⅰ キャンパス AED設置MAP

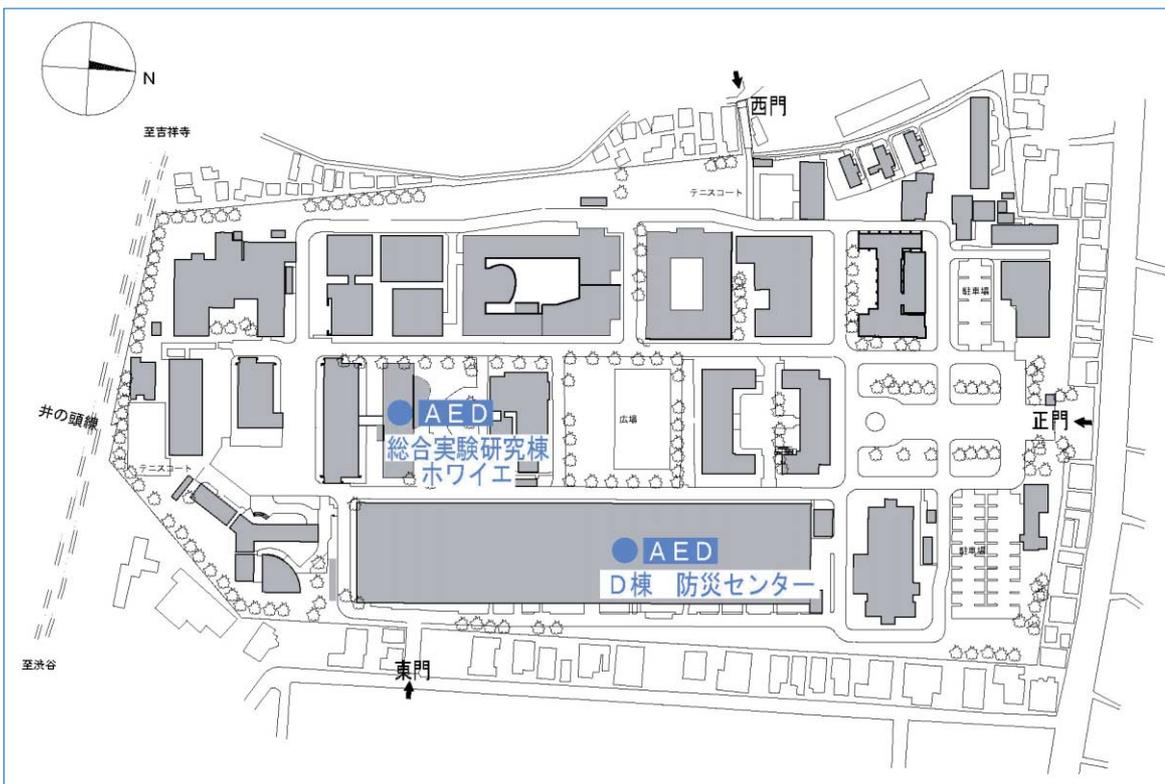


24時間対応
の設置場所
(内線46666)
【駒場Ⅰ】
教養学部
正門 門衛所

駒場Ⅰ
キャンパス
には
5ヶ所
あるんだね！



駒場Ⅱ キャンパス AED設置MAP



24時間対応
の設置場所
(内線56099)
【駒場Ⅱ】
生産研
防災センター

駒場Ⅱ
キャンパス
には
2ヶ所！



柏キャンパス AED設置MAP



24時間対応
の設置場所
(内線63010)
【柏】
正門門衛所

柏キャンパス
にも2ヶ所!



茨城県の東海村
にも1ヶ所!

各MAPでご紹介した場所以外にも、
【東海村】工・原子力専攻 研究棟
(事務室前・外線 029-287-8402)
に24時間対応でAEDを設置してあります。

※ 今後は、白金台、中野、各演習林等でも
対応していきます。

本学では、心肺蘇生法、AEDの取扱い
を含む講習会を近く予定しています。

普通救命講習

日 時： 6月26日(火) 9:30~12:30
場 所： 医学部総合中央館 333号室

申込み： 6月19日(火) 18:00まで。
環境安全本部まで E-mail (anei-2@adm.u-tokyo.ac.jp) にて、
お申し込みください。
なお、同様の講習会については適宜、各消防署等で行って
おります。必要に応じて、ご照会ください。

防災行動力向上訓練
—ステップアップ訓練—
6月18日(月) 午後12時から
東大工学部 1号館前広場
JUNE 18, 2007 12:00~13:30
Faculty of Engineering
Igokan mae place

3stepで防災行動力を身につけておきましょう!

1st Step <体験型各種防災訓練>
6月18日(月)工学部1号館前広場

2nd Step <普通救命講習>
6月26日(火)医学部総合中央館(333号室)

3rd Step <地域防災教室>
7月11日(水) 東京大学周辺地域及び本郷消防署

Hongo fire station
本郷消防署

後援: 東京大学環境安全本部 (anei@adm.u-tokyo.ac.jp)
www.u-tokyo.ac.jp/anei

問い合わせ先：環境安全本部（内線21051）

NEWS

部局 ニュース



海洋研究所

部局

海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターにて海洋環境臨海実習が行われる

5月7日(月)から11日(金)にかけて、新領域創成科学研究科の大学院学生を対象とした海洋環境臨海実習が国際沿岸海洋研究センター(岩手県上閉伊郡大槌町)にて行われた。

自然環境学専攻の学生21名が参加した今回の実習では、調査船「弥生」に乗船して行ったCTD観測と採水、CTD観測で得られた水温・塩分のデータ解析と海水の化学分析(溶存酸素やクロロフィルaの定量)、小型の動物掲載型記録計(データロガー)を用いたデータ収集とデータ解析、碎波帯における仔稚魚の採集とソーティング、ウミタナゴを用いた魚類の外部・内部形態の観察などの実習が行われた。期間中天候にも恵まれ、予定された実習を全て行うことができた。



調査船「弥生」に乗船して実習に出発

いずれの実習も本センターの特色を生かした内容であ

り、三陸海岸の風光明媚な自然環境の下、参加学生にとってフィールド研究の醍醐味の一端を知るよい機会になったものと思われる。本センター共同利用研究員宿泊所で寝食を共にした合宿生活も参加学生にとっては楽しい経験になったものと思われ、皆大いに満足した様子であった。

なお、この実習は来年度も実施される予定である。



碎波帯での仔稚魚の採集実習「地曳き網」



魚類の外部・内部形態の観察実習

大学院教育学研究科・教育学部

部局

教育学部附属中等教育学校で「学びの共同体」研究会行われる

5月10日(木)13時~16時まで教育学部附属中等教育学校、新教育棟と多目的室において、2007年度第1回目の「学びの共同体」研究会が行われた。

附属学校では、2005年度から「学びの共同体」づくりをはじめた。そこでは、4つの課題をもって学校の改革を行っている。

- 1 教師と子どもとのよりよい人間関係の構築
 - 2 学びを中心とする授業の創造
 - 3 学び合う「同僚性」のある教師集団の創造
 - 4 親が子どもの学びに参加する「親の学習参加」の創造
- の4点である。

授業の中では教師の「声」「ことば」「身体」に柔らかさが求められる。また、小グループ活動を取り入れ、教師が一方向的にしゃべる授業を、できるだけ子どもの「問い—探求—表現」の学びに変える。そして、仲間で聴き合う活動を大切にする。教師全員が年1回は授業を公開し、授業検討会を充実させていく。すでに、2006年度は、通常の学年単位で授業公開72回、授業検討会45回を行った。

年に3度、校内で全体会が行われる。本年度1回目は、2年A組（40名）で、社会科「日本の茶産業」（授業者・野崎雅秀教諭）であった。

導入で「新茶」を実際に生徒に飲ませたあと、日本の茶の生産地を表から読み取り、1位～5位まで府県を白地図で確認した。その後、4人のグループになり『日本国勢図会』の1984年版、1995/96年版、2004/05年版のデータを見比べて、①その変化をみつけさせ、②変化の理由を考えさせたのち、生徒たちに発表させた。

昨年度から比べて「生徒の学び合いが良くなっている」という意見も出た。指導助言者の大学院教育学研究科の佐藤学教授は「課題をもっと難しく高いレベルにすること、前半のムダをなくして、はやく課題に取り組みさせること」をアドバイスのことばとした。また、午前中、全クラスの授業を見ての感想として「始めて2年だが、順調にきている」と述べ、「5年間かけて日本一、さらに世界一のモデルを構築していきたい」という明確な目標を提示して、附属の教員を激励した。



授業の様子

気候システム研究センター

部局

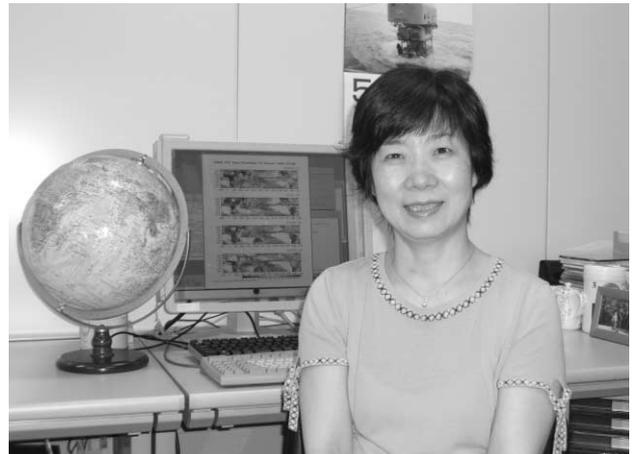
高藪縁教授 第27回猿橋賞受賞、
佐藤正樹准教授 2007年度日本気象学会賞受賞

地球温暖化等、気候変動現象とその社会影響が新聞などで大きく取り上げられるようになってきました。この2月の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）総会において第1作業部会の第4次報告書が受諾されました。それによると様々な気候データの解析とモデリングを通して、地球温暖化現象が実際に起こっていることが科学的に高い確度で示されました。このような気候変動現象は

社会に様々な影響を及ぼしますが、そのメカニズムも複雑で科学的にも多くの研究を必要としています。

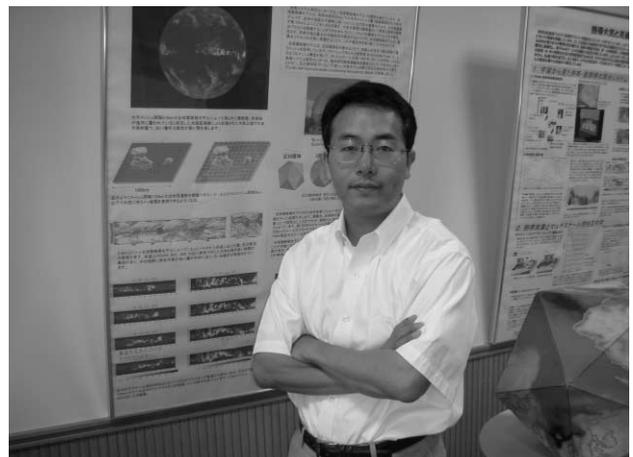
気候システム研究センターでは、高精度の気候モデリングとデータ解析を用いた気候研究を行っています。その努力のひとつとして、今期、高藪縁教授が第27回猿橋賞を、佐藤正樹准教授が2007年度日本気象学会賞を受賞することとなりました。

猿橋賞は、「女性科学者に明るい未来をの会」（1980年創立）から毎年、自然科学の分野で顕著な研究業績をおさめた女性科学者に贈られる賞です。今回、評価された業績は、「熱帯における雲分布の力学に関する観測的研究」。



猿橋賞を受賞した高藪縁教授

気象学会賞は、最近5年間に気象学に関する貴重な研究を学術誌に発表した研究者を各年1～2名顕彰するものです。今回、評価された業績は、「準一様格子を用いた全球雲解像大気モデルの開発とそれによる熱帯対流雲集団のシミュレーション」。



日本気象学会賞を受賞した佐藤正樹准教授

猿橋賞授賞式は5月26日（土）、気象学会賞授賞式は5月14日（月）に行われました。

受賞理由、関連学会へのリンクは気候システム研究センターのホームページに掲載しています。

<http://www.ccsr.u-tokyo.ac.jp/>

大学院法学政治学研究科・法学部

部局

寄付講座「政治とマスメディア」フ
ォーラム「日本政治の可能性」、
開催される

大学院法学政治学研究科寄付講座「政治とマスメディア(朝日新聞社)」は5月17日(木)、中川秀直自由民主党幹事長、鳩山由紀夫民主党幹事長をゲストに迎え、法学部4号館8F大会議室に於いてフォーラムを開催した。

薬師寺克行朝日新聞社月刊『論座』編集長の司会により高橋進教授の挨拶の後、中川秀直自由民主党幹事長と鳩山由紀夫民主党幹事長の基調講演に続き、「財政再建問題」、「国際化時代の外交」、「保守主義の意味」等をテーマに谷口将紀准教授と薬師寺編集長のコメントと質問による白熱した議論が行われ、またフロアの学生からは、中川幹事長には公務員制度のあり方、鳩山幹事長には格差(再分配)、アジア外交、農業政策、安全保障等についての質問が出た。限られた時間のなかで活発な意見交換が行われ、森田朗公共政策大学院長の総括により閉会となった。

会場は総勢170名余りの出席者及び関係者で用意した補助椅子席も足りない程となり、出席者からは非常に有意義で充実した内容であったとの感想をいただいた。

* 共催：公共政策大学院

東京大学21世紀COEプログラム

「先進国における《政策システム》の創出」



基調講演



会場の様子

キャンパス ニュース



学生部

キャンパス

『第59回東京大学・一橋大学対校競漕
大会(東商戦)』開催される

4月30日(月)、一橋大学との伝統の対校ボートレースである東商戦が開催されました。

当日は天候にも恵まれ、応援部の力強い応援の中、盛大に行われました。

結果は、大学の威信を懸けて行う対校全種目において勝利を飾ることができました。中でも、対校戦の勝敗を決する対校エイトは11年ぶりの連覇、対校フォアに至っては実に12年ぶりの勝利、そして何より対校種目全勝(12年ぶり14度目)という近年では快挙といえる成果となりました。当初の目標であった「東商戦完封」とまではいかなかったものの、それに近い結果となったように思います。久々の快勝に、勝利の美酒に酔いしれ、大いに沸きあがりました。

しかし、この結果に満足することなく、最終的な目標であるインカレに向けて更に全力を尽くしてまいります。



連覇を果たし沸きあがるエイト達

東商戦当日、応援に駆けつけてくださった古田元夫運動会理事長、学生部の方々、応援部の方々、学内の皆様、本当に有り難うございました。

今後とも漕艇部の活動を見守っていただければ幸いです。



対校フォアにおける漕艇部クルーの力漕



対校エイトにおける漕艇部クルーの力漕

< 東商戦結果 (対校種目のみ) >

・対校女子クォドルプル

レーン	大学	Time	着
3	東京大学	7'48"43	1
4	一橋大学	7'59"66	2

・対校シングルスカル

レーン	大学	Time	着
3	東京大学	8'00"57	1
4	一橋大学	8'18"59	2

・対校フォア

レーン	大学	Time	着
3	東京大学	7'17"54	1
4	一橋大学	7'21"67	2

・対校エイト

レーン	大学	Time	着
3	東京大学	6'32"91	1
4	一橋大学	6'39"45	2

< 今後の漕艇部の活動 >

- 6月7～10日 全日本選手権
- 7月6～8日 軽量級選手権
- 8月23～26日 全日本大学選手権・OX盾レガッタ
- 9月23日 京大戦・東京大学130周年記念レガッタ
- 10月19～21日 全日本新人選
- 12月2日 総長杯争奪水上運動会

インタープリターズ・ バイブル vol. 4



科学技術振興調整費新興分野人材育成 科学技術インタープリター養成プログラム

異文化コミュニケーションとしての 科学コミュニケーション

佐倉 統

大学院情報学環教授

科学技術インタープリター養成プログラム担当

科学コミュニケーションというのは、ある種の異文化コミュニケーションなのだと思う。その分野を専門に研究している人と、全然そうでない人とは、文脈も価値観も思想信条も大きく異なる。もちろん、知識の量も違うけれど、じゃあ知識を増やせば理解してもらえるかという、決してそんなことはない。話が通じないのは、コミュニケーションの中身(どんな知識か)の問題ではない。背景や文脈(なぜその知識が必要か)が共有できていないからである。その研究の社会的な影響や意義などを知りたがっているのに、それらそっちのけで研究の中身の話ばかりされたのでは、興味をもつ人はいない。

異文化コミュニケーションをスムーズに進めるためには、お互いに相手の価値観や背景を考慮することから始めなければならない。「モノを盗んではいけない」と注意しても、その「モノ」の範囲や概念が異なる人であれば、ルールを破っているかのように見える振る舞いをするかもしれない。あげくに、「なんでこんなに口を酸っぱくして注意しているのに守らないんだ!」と青筋立てて怒るハメになるかもしれない。だけど怒られた方は、自分の「モノ」概念に基づいて、きちんとルールを守っているのである。怒られる理由も分からなければ、対処のしかたも見当がつかない。悪循環だ。

相手の文化的背景を知るのにいちばん良いのは、その国を訪れ、しばらく住んでみることだ。短期間の滞在であってもいい。それが無理な場合は、その相手とプライベートで付き合ってみるだけでもだいぶ違う。とにかく、相手の価値体系を、肌で体感していることが必要不可欠である。異文化を身体知として装甲する、といってもいい。それができなければ、コミュニケーションは成功しない。

だから、科学コミュニケーションのスキルアップにも、実地体験やオン・ザ・ジョブ・トレーニングが欠かせないのである。教室で有名な先生の授業を聞くだけでは、必要な能力は決して身に付かない。街に出よう。自分がしゃべる前に、相手の話を聞こう。そして、相手を知る努力をしよう。科学コミュニケーションは、そこから始まる。

★科学技術インタープリター養成プログラム

URL:<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/STITP/>

開催案内

6/13(水) 産学連携本部・JST主催
JST Innovation Bridge 東京大学研究発表会

「JST Innovation Bridge 東京大学研究発表会
バイオエンジニアリング編」

日時: 6月13日(水) 10:00~18:00(懇親会18:15~)

会場: 山上会館2F大会議室

(懇親会: 山上会館1F ラウンジハーモニー)

参加費: 無料(懇親会は1,000円)

※参加には事前登録が必要です

◇お申込 <http://deainoba.jp/meeting/070613/>

【開催趣旨】

イノベーション創出の可能性を秘めたシーズ候補を、産業界の視点で探索頂く場を提供いたします。共同研究に意欲的な東京大学の研究者が、最先端の研究発表を行います。ポスター会場等で、研究者と意見交換が行えます。本発表会により新たな出会いが生まれ、JST主催の産学共同シーズイノベーション化事業(800万円の研究費支援公募事業)へのご応募等、産学連携に発展することを支援します。

【プログラム】

◇主催者挨拶

藤田隆史(産学連携本部 本部長)
小原満穂(独立行政法人 科学技術振興機構 審議役)
太田与洋(産学連携本部 産学連携研究推進部長・教授)

◇ご講演

- ①「医薬品スクリーニング用細胞アレイシステムの開発」
長棟輝行 教授(大学院工学系研究科)
- ②「ヒトES細胞から産生する血小板を用いた輸血療法」
中内啓光 教授・江藤浩 助教(医科学研究所)
- ③「ニューロエンジニアリング」
神保泰彦 教授(大学院新領域創成科学研究科)
- ④「腸管免疫系を標的とした新規免疫機能食品の研究開発」
八村敏志 准教授(大学院農学生命科学研究科)
- ⑤「モバイル・ナースによる予測・制御」
山本義春 教授(大学院教育学研究科)
- ⑥「人間の認知機能の可視化に向けた測定方法の開発」
坪見博之 助教(先端科学技術研究センター)
- ⑦「個性適応型情報処理技術の要素技術と今後の研究動向」
横井浩史 准教授(大学院工学系研究科)
- ⑧「マイクロ流体デバイスのバイオ応用」
藤井輝夫 教授(生産技術研究所 マイクロメカトロニクス国際研究センター)
- ⑨「移動知における社会的適応行動発現のモデル化と解明」
浅間 一 教授(人工物工学研究センター)
- ⑩「遷移金属を有する機能性錯体・ナノ粒子とその界面複合」
西原 寛 教授(大学院理学系研究科)
- ⑪「分子機械を利用した刺激応答性ナノマテリアル」
金原 数 准教授(大学院工学系研究科)
- ⑫「革新的分析・診断・治療“メソッド(Methodology)”」
上坂 充 教授(大学院工学系研究科)

事業化推進部からのお知らせ

第3期アントレプレナー道場 開講

学生起業支援プログラムの「東京大学アントレプレナー道場」が本年度(第3期)もいよいよ始まりました。現時点で既に学部・大学院学生合わせて130名を超える応募がありました。4月24日(火)19:00~21:00(於 薬学系研究科総合棟2階講堂)の「初級コース」勉強会(講義+質疑応答)には多数の学生が参集しました(写真参照)。この勉強会を皮切りに10月末のビジネスプラン・コンテスト(最終発表審査会・表彰式)までの6ヶ月間の長丁場となります。



本年度の予定は以下の通りです。

【初級コース: 起業・事業化とは何かを知る】

- | | | |
|---------|----------|-------------|
| 勉強会 第1回 | 4月24日(火) | 19:00~21:00 |
| 第2回 | 5月8日(火) | 19:00~21:00 |
| 第3回 | 5月15日(火) | 19:00~21:00 |
| 第4回 | 5月22日(火) | 19:00~21:00 |
| 第5回 | 5月29日(火) | 19:00~21:00 |

場所: 薬学系研究科総合棟2階講堂

☆「初級ビジネスサマリー」提出締切 6月15日(金)

【中級コース: 起業・事業化を構想する】

- | | | |
|--------|----------|-------------|
| 演習 第1回 | 7月3日(火) | 19:00~21:00 |
| 第2回 | 7月10日(火) | 19:00~21:00 |
| 第3回 | 7月24日(火) | 19:00~21:00 |
| 第4回 | 7月31日(火) | 19:00~21:00 |
| 第5回 | 8月21日(火) | 19:00~21:00 |

場所: 産学連携プラザ2階大会議室

☆「中級ビジネスプラン」提出締切

8月31日(金) (予定)

【上級コース: 起業・事業化プランを策定し社会に問う】

☆検見川研修所での合宿

9月29日(土)+30日(日)を予定

☆ビジネスプラン最終発表審査会・表彰式

10月27日(土)を予定

連絡先: 産学連携本部(研究協力部 産学連携課)

電話: 内線22857(外線03-5841-2857)

ホームページ: <http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

※「東京大学トップページ」上で「産学連携本部」をクリック

コミュニケーションセンターだより No.34

■新商品のご紹介

お待たせいたしました！！コミュニケーションセンター
OPEN当時から御要望が多かった「ボールペン替え芯」
発売いたしました。



■「ボールペン替え芯」

●販売価格：50円（税込）

コミュニケーションセンターで扱っているボールペンは、「ここでしか手に入らないものを！」との思いから、一般的な型ではないものを販売しております。そのため、一般文房具店で販売されている「替え芯」が使えず、ぴったり合う「替え芯」を販売して欲しい、というお声をたくさんのお客様から頂いております。

コミュニケーションセンターでは、今後もお客様からのご意見、ご要望を形にして参りたいと考えております。貴重なご意見、ご要望をどんどんお寄せ下さい。

■UTCCスタッフ紹介

～Part 6～

UTCCスタッフ紹介！早くも6人目になりました。
学生スタッフ一同、お客様の笑顔を励みに頑張っております。
店頭にお立ち寄りの際は是非お声をお掛け下さいませ！



農学部
生物環境科学課程
環境生物学専修
高木 理代

今年の4月から働き始めました。
まだまだ仕事は覚えきれていませんが、お客様とコミュニケーションできることを楽しく感じています。
UTCCの商品は興味深いものばかりで、どれも欲しくなってしまう。その中でも私の好きな商品は「ビニールバッグ」です。
落ち着いた色合いと、主張しすぎないデザインで気に入っています。

(担当：コミュニケーションセンター 吉岡)



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30
電話：03-5841-1039
http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp

わたしのオシゴト 第14回

Rings around the UT

先端科学技術研究センター 事務部
施設安全係

飯島 宜之さん

良好なキャンパス環境を目指して

私のいる先端科学技術研究センターは、駒場Ⅱキャンパスにあります。本郷からは、約1時間。新宿・渋谷にも程近いおしゃれな住宅が立ち並ぶ素敵な場所です。

部局での仕事は、本部のように建物をつくるのではなく、建物管理・安全管理など管理を主としています。先端研では、毒劇物などの薬品を研究に用いる研究室も多いため、取扱いや保管の方法が正しく行われているかを週1回の職場巡視や様々な調査などを通して状況確認や正指導を行っております。

全学を通じて、安全管理は注目を浴びている分野ですが、規定・基準の線引きが難しいため、非常に曖昧な点が多いのも事実です。

今まで行っていた業務とは違い、一から覚えていくことも多く、勉強ばかりですが、安全管理に関しての自分なりの理解を深められるよう頑張りたいと思います。

また、3月には女の子が産まれたので、我が家の女王様と遊ぶのを楽しみに日々の業務を行っているところです。

出身地：東京都

自分の性格：

のんびり屋の亀さん

血液型：O型

次回執筆者のご指名：

杉山牧子さん

次回執筆者との関係：

結婚同期

一言紹介：

とっても素敵な若奥様！



作業着姿で奮闘中！！



父親としては、まだまだ半人前。



第28回 調達改善成果の効果的運用

前回、効率化係数1%による運営費交付金の減少という状況における調達改善の必要性について書きました。このタイミングに合わせるかのように、現在、財務省は大学運営費交付金の新たな配分ルールとして成果主義の導入を検討しています。交付金はこれまでの大学の「規模」基準から「研究」や「教育」での成果基準で決まる方向へとシフトしていきそうです。専門家は「国立大学により厳密な経営管理が求められる」と言っています。大学を取り巻く環境は厳しさを増すばかりですね。

さて、適正な経営管理を進めるに当たっては調達コストの削減が大きなポイントです。しかしながら、最終的には削減効果をいかに活用するかが重要です。

民間企業でのこんな話を聞いたことがあります。

部長「社長、今年のはかつて無いレベルの調達コスト削減が見込まれます」

社長「よくやった。で、削減で得た金はどこにある」

部長「えーと・@*△?■…。たぶん何かに使ってます」

結局のところ、調達改善効果は確実に予算を把握していないと、執行されていない予算と混同し費消されることとなり有効活用されません。例えば10本買えばすむボールペンを12本買ってしまうようなことが起こります。

このようなことを防ぐため、「東京大学アクションプラン」では「調達改善における部局メリットの明確化」と「調達の効率化メリットの捕捉と新財源の積極的な活用策の確立」がうたわれております。「調達改善における部局メリットの明確化」としては、学内の諸会議でも説明しているとおり、部局と本部で効果を「折半」とし全学でメリットを享受することとしています。また、「調達の効率化メリットの捕捉と新財源の積極的な活用策の確立」に向け、19年度、新たな取組として各部局へ年度当初に配分する運営費交付金に「UT購買サイト効果分」「複写機効果分」という内訳を設けました。

「UT購買サイト効果分」とは、平成16・17年度に各部局のUT購買サイト登録サプライヤとの取引額から『UT購買サイトを上手に使用すれば実現する効果額』を部局別に示したものです。また、「複写機効果分」は複写機を全学一括入札としたことにより発生する調達改善成果の見込額です。

平成18年度の調達改善成果は、全学で約4.5億円でした。このうち、約3.5億円が本部に帰属する成果。本部ではこの成果を有効に使うため、事前に見込額を全学教育研究資金の財源とし、学内のバリアフリー対策、緊急を要する建物改修などに当てました。各部局においても、「UT購買サイト効果分」や「複写機効果分」を活用するなど、成果の上手な使い方を工夫してください。

調達本部連絡先 ☎21201 櫻井

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

大学院農学生命科学研究科・農学部

東京大学創立130周年記念事業 第32回東京大学農学部公開セミナー

大学院農学生命科学研究科・農学部では、以下の要領でセミナーを開催します。無料で、どなたでも参加できます。多くの方のご来場をお待ちしております。

第32回 東京大学農学部公開セミナー 『農学を創った人、農学が創ったもの』

司会：農学国際専攻 溝口 勝 准教授

「日本の農地を作り変えた人
—上野英三郎、もうひとつの忠犬ハチ公物語—」
生物・環境工学専攻 塩沢 昌 教授

「日本の美しい自然を継承するために
—国立公園の誕生—」
森林科学専攻 下村 彰男 教授

パネルディスカッション
農学を創った人、農学が創ったもの

日 時：6月23日（土）13:30～16:30

場 所：弥生講堂・一条ホール

東京都文京区弥生1-1-1

地下鉄南北線「東大前」下車 徒歩1分

地下鉄千代田線「根津」下車 徒歩7分

対 象：一般（どなたでも参加できます）

定 員：300名（当日先着順）

参加費：無料

問合せ先：東京大学農学系総務課 総務チーム
総務・広報情報担当
〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1
電話：03-5841-5484・8179
E-mail：koho@ofc.a.u-tokyo.ac.jp

※受講証を発行いたします。
ご希望の方は、120円切手をご持参の上、当日受付でお申込ください。

主催：大学院農学生命科学研究科・農学部
共催：(財)農学会

シンポジウム・講演会

大学院工学系研究科・工学部

**「ナノフォトニクス総合的展開2007」
シンポジウム開催のお知らせ**

電子工学専攻において平成18年度より実施されている(独)NEDO技術開発機構の施策「NEDOプロジェクトを核とした人材育成、産学連携等の総合的展開(NEDO特別講座)」による「ナノフォトニクス総合的展開」プロジェクト(平成23年3月までの時限)の年次シンポジウムを開催いたします。

日時：7月25日(水) 13:00～18:00(開場 12:30)
会場：武田先端知ビル5F「武田ホール」
参加費：無料
申込方法：問い合わせ先のホームページを参照

<プログラム>

- ・開会挨拶 大津 元一(東京大学)
- ・イノベーション実現に向けたNEDOの取り組み～NEDO特別講座～
橋本 正洋((独)NEDO技術開発機構)
- ・東京大学産学連携本部の活動紹介
藤田 隆史(東京大学産学連携本部)

【基調講演】

- ・ナノフォトニクスの展望
大津 元一(東京大学)

【特別セッション】

- ・[文科省リーディングプロジェクト終了報告]
近接場光リソグラフィー
黒田 亮(キヤノン(株))
- ・[近接場光リソグラフィーの応用]
近接場光からX線へ
小池 雅人(日本原子力研究開発機構)

- ・[NEDO大容量光ストレージ紹介]
ナノフォトニクスで実現するテラビット級ストレージ
西田 哲也(株)日立製作所)
- ・近接場光計測の国際標準化にむけて
成田 貴人(日本分光(株))

【ナノフォトニクス最新研究報告】

- ・ナノフォトニクス固有の現象を生かす
川添 忠(東京大学)
- ・ナノフォトニクスにおける光インターコネクション
野村 航(東京大学)
- ・ナノフォトニクスから見える新しい光セキュリティ
成瀬 誠(情報通信研究機構・東京大学)

【インタラクティブセッション(於ホアイエ)】

- ・ナノフォトニクス分野別個別相談会
- ・「ナノフォトニクス総合的展開：産学連携・人材育成プログラム」のご紹介

問い合わせ先：

ナノフォトニクス総合的展開事務局 担当：田村
TEL:03-5841-1670 FAX:03-5841-1140
E-mail:
symposium2007@nanophotonics.t.u-tokyo.ac.jp
URL: <http://uuu.t.u-tokyo.ac.jp/jpn/index.html>



お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第503(6月6日)号の発行 ——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第503(6月6日)号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

小島憲道：クラカタウ島の大噴火と1880年代の絵画
長木誠司：教養学部ピアノ演奏会・小山実稚恵りサイトル

<本の棚>

石浦章一：東京大学教養学部編
『高校生のための東大授業ライブ』

風間洋一：ブレーンの魔術
橋本幸士著『Dブレーン——超弦理論の高次元物体が描く世界像』

<時に沿って>

佐藤守俊：細胞の中の分子を見る
佐々木一茂：回り道
コーナーストーン：佐藤良明さんを「ひとまず」送る会

<本郷各学部案内>

金子元久：教育学部 教育を通して人間と社会を考える
山本正幸：理学部 理学部からのメッセージ
太田明德：農学部 生きものと生きものの生みだすもの
金井 求：薬学部 分子を中心にした総合生命科学研究の拠点
馬場康雄：法学部 法学部進学予定の皆さんへ

お知らせ

情報基盤センター

“情報探索ガイダンス” 各種コース実施のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、レポート・論文作成や学習・研究に役立つ“情報探索ガイダンス”各種コースを実施します。

本学にご所属であればどなたでも参加できます。

●会場：

本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナー
(定員12名)

●コース概要とスケジュール：

<分野別データベーストレーニング>

各データベースの提供元から講師を招いて、実習形式の講習を行います。No.1356でお知らせしたコースに、総合分野の2コースを追加開催することになりました。是非ご参加ください。(各60分)

■朝日新聞記事データベース 聞蔵IIビジュアル

7/3 (火) 16:00~17:00 (※要予約)

1945年から当日までの朝日新聞のほか、AERA(アエラ)、週刊朝日、知恵蔵の全文記事を検索できるデータベースです。紙面イメージの表示も可能です。

■MC-統計

7/5 (木) 15:00~16:00 (※要予約)

官庁統計データ活用支援ツールです。検索・閲覧のほか、データの加工、図表化、ダウンロードも可能です。

※その他のコースも予約受付中です。先着順ですので、お早めに、下記のサイトからお申し込みください。

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

<テーマ別ガイダンス>

1つのテーマに沿って、検索実習を交えながら解説します。

■自宅から検索するには？(60分)

7/9 (月) 15:00~16:00

学内・学外を問わず利用できる無料公開のデータベース・電子ジャーナルなどを紹介します。また、通常は学内からのみ利用可能なデータベース・電子ジャーナルでも、手続きをして学外から利用できるものがありますので、その方法を紹介します。

さらに、帰省先や海外で図書館を利用したい人向けに、他大学等の図書館を利用する際の手続き・注意点を説明します。夏休み前におすすめのコースです。

予約不要です。直接会場へお越しください。

<Database User Training (English Session) >

■Web of Science Course (60 minutes)

6/26 (Tue.) 16:30~17:30

Covers articles published in major academic journals (about 8,800 journals).

In addition to conventional searches by keyword, it provides information on citation inter-connections.

■Electronic Journals Course (60 minutes)

7/6 (Fri.) 13:00~14:00

This course covers the fundamental aspects involved when consulting electronic journals. Explanations about the search functions of publishers such as ScienceDirect, SpringerLink and WileyInterScience can be tailored to include examples in your specific field of research.

No advance reservation is required.

●問い合わせ：

学術情報リテラシー係

03-5841-2649 (内線：22649)

literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

丹羽 登 名誉教授

本学名誉教授 丹羽 登先生は、平成18年11月25日逝去されました。享年85歳でした。

先生は、大正10年5月7日東京にお生まれになり、昭和19年9月東京帝国大学第二工学部電気工学科をご卒業後、同大学院特別研究生を経て、昭和22年8月に東京帝国大学第二工学部に講師として任官なさいました。昭和24年5月には東京大学助教授に任ぜられ、昭和36年12月に東京大学教授に昇任されました。この間、東京大学生産技術研究所を経て、昭和32年には現在の駒場第二キャンパスに移られ、東京大学航空研究所、宇宙航空研究所、工学部附属境界領域研究施設にて研究・教育にご尽力なさいました。昭和31年5月には東京大学から工学博士の学位を授与されておられます。昭和57年にご停年になられ、東京大学名誉教授の称号を授与されました。引き続き、千葉工業大学にて教授をお勤めになり、平成4年3月末にご退職後も平成9年3月まで、同大学非常勤教授として教育研究にあたられました。

先生のご専門は電子応用計測であり、超音波やテレビジョン技術、光ファイバ応用などにより、斬新な計測技術をご提案・開発になっておられます。東京大学、千葉工業大学のみならず、秋田大学、電気通信大学などにて非常勤講師に招かれてご専門の講義をなさった他、複数の国立研究所から招聘研究員・客員研究員を委嘱されておられます。また、大学設置審議会、学術審議会、電波技術審議会等の委員としてもご活躍になられました。

学位請求論文ともなった超音波応用計測に関して



は、特に先駆的なご業績を多く残されました。超音波探傷器の重要性をいち早く説き、研究室にて新たな技術開発を展開するとともに、その啓蒙と実用化にも尽力されて我が国の製造業の発展に貢献なさいました。日本非破壊検査協会の会長を務められ、国際非破壊試験常置委員会への日本代表にも選任されました。さらに、非破壊検査技術者技量認定制度の制定・普及にも力を注がれ、技量認定委員会委員長も務められました。これらご業績により、米国非破壊検査学会FELLOW称号、日本非破壊検査協会功績賞、同協会賞等を受けておられます。この他にも超音波計測関連では、医療や農業への応用も進められて計測自動制御学会技術論文賞等も受けられ、著書「超音波計測」は好著として版を重ねてきました。

宇宙観測用ロケット、観測衛星などによる宇宙科学観測に対しても精力的に貢献され、特に宇宙観測用狭帯域テレビジョン方式の研究開発にご尽力なさいました。テレビジョン応用計測技術は、この他、電気鉄道架線の診断技術、海底鉱物資源探査技術等の開発にも活用され、テレビジョン学会から業績賞を受けておられます。また、光ファイバによるセンシング技術の研究でも先駆的なご業績を残され、特に、光ファイバジャイロの研究では我が国初の実験系を稼働させて、計測自動制御学会技術賞をご受賞になられました。

また、これら業績により、平成12年春の叙勲で「勲三等旭日中授章」を受けられ、亡くなられた後に正四位に叙せられました。

引退されてからも、後輩の活躍をわがことのように喜んで、暖かな励ましを送ってくださった先生のご逝去は哀惜の念に耐えません。温厚で慈愛深く教職員に接して来られた先生の面影を偲びつつ、ここに謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈り申し上げます。

(大学院工学系研究科)

EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
公共健康医学専攻【設立記念シンポジウム】	6月7日(木) 17:00~19:00	医学部教育研究棟14F 鉄門講堂	大学院医学系研究科公共健康医学専攻 URL: http://www.m.u-tokyo.ac.jp/sph/index.html
110回オルガン演奏会 「イタリア展」を記念して) ※1356号参照	6月7日(木) 18:30開演 (18:00開場)	教養学部 900番教室(講堂)	総合文化研究科・教養学部オルガン委員会 TEL: 03-5454-6139 (美術博物館) E-mail: cmaeda@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp URL: http://organ.c.u-tokyo.ac.jp/
EUとイランーEric Remacle教授講演会	6月8日(金) 16:20~17:50	駒場キャンパス I 18号館コラボレーションルーム 3	東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター事務室 E-mail: desk@desk.c.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/j/sympo_e138.html
健康科学看護学専攻 修士課程入試説明会	6月9日(土) 10:00~12:00	医学部2号館本館 1階 小講堂	http://www.m.u-tokyo.ac.jp/daigakuin/apply/appguide210.html
2008年度「人間の安全保障」プログラム入試説明会	6月9日(土) 13:00~14:30	駒場キャンパス 18号館ホール	大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム事務局 TEL & FAX: 03-5454-4930 E-mail: hsp-toiawase@hsp.c.u-tokyo.ac.jp URL: http://human-security.c.u-tokyo.ac.jp/
東文研セミナー 「長江下流域における新石器時代中・後期の遺跡紹介」	6月14日(木) 14:00~16:00	東洋文化研究所会議室(工学部 8号館7階736号室)	http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
第2回女子高校生のための「サイエンスカフェ本郷」	6月17日(日) 13:00~16:00 (12:30開場)	理学部1号館2階 小柴ホール	大学院理学系研究科・理学部 広報室 TEL: 03-5841-7585 E-mail: kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.s.u-tokyo.ac.jp/event/science-cafe2/
CPAS Seminar: Viet Thanh Nguyen Intersections, Social Change, and "Engaged" Theories: Implications of American Feminism	6月19日(火) 18:00~	駒場キャンパス14号館2階 アメリカ太平洋地域研究 センター会議室	東京大学アメリカ太平洋地域研究センター E-mail: seminar@cpas.c.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.cpas.c.u-tokyo.ac.jp/indexjpn.html
第32回 東京大学農学部公開セミナー 「農学を創った人、農学が創ったもの」 ※14ページ参照	6月23日(土) 13:30~16:30	弥生講堂・一条ホール	農学系総務課 総務チーム 総務・広報情報担当 TEL: 03-5841-5484, 8179 E-mail: koho@ofc.a.u-tokyo.ac.jp
社会科学研究所 現代日本研究会	6月27日(水) 18:00~	赤門総合研究棟5F センター会議室	Shinichi Aizawa E-mail: aizawa@iss.u-tokyo.ac.jp URL: http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/cjg/
111回オルガン演奏会 ※1357号参照	6月28日(木) 18:30開演 (18:00開場)	教養学部900番教室(講堂)	大学院総合文化研究科・教養学部オルガン委員会 TEL: 03-5454-6139 (美術博物館) E-mail: cmaeda@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp URL: http://organ.c.u-tokyo.ac.jp/
史料編纂所附属画像史料解析センター 開設10周年記念研究集会 「画像史料研究の成果と課題」 ※1357号参照	6月29日(金) 13:00~17:00	山上会館大会議室	画像史料解析センター開設10周年記念事業実行委員会 委員長: 林 譲 (hayashi@hi.u-tokyo.ac.jp) 幹事: 末柄 豊 (suegara@hi.u-tokyo.ac.jp) FAX: 史料編纂所事務室 (03-5841-5956)
「甘美なる聖母の画家 ヘルジーノ展」 開催記念講演会	6月30日(土) 14:00~	文学部法文2号館1大教室	美術史学研究室 artist@l.u-tokyo.ac.jp
ナノフォトニクス総合的展開2007 ※15ページ参照	7月25日(水) 13:00~18:00 (開場 12:30)	武田先端ビル5F「武田ホール」	ナノフォトニクス総合的展開事務局 担当: 田村 TEL: 03-5841-1670 FAX: 03-5841-1140 E-mail: symposium2007@nanophotonics.t.u-tokyo.ac.jp URL: http://uuu.t.u-tokyo.ac.jp/jpn/index.html
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
創造の広場イタリア	3月24日(土) ~6月17日(日) 休館日: 毎週火曜日 開館時間 10:00~ 18:00	駒場博物館1階 美術博物館展示室	総合文化研究科・教養学部 美術博物館 TEL: 03-5454-6139 FAX: 03-5454-4929
第3回 高齢者教室 (老後を迎えるにあたって起こり得る様々な問題につ いての、老年病の各専門分野の方々の講演) ※1352号参照	3月28日から6月13 日ま での毎週水曜日 (4/4と4/11は休み) 14:00~	東大病院 入院棟A 15階大会議室	東大病院老年病科 TEL: 03-5800-8652 担当 野村
第35回生研公開講座イブニングセミナー 「都市と環境のフィールド調査の現場から」	5月11日(金) ~7月13日(金) (5月25日、6月1日 を除く各金曜日 全8回) 18:00~19:30	生産技術研究所 総合研究実験棟 (An棟) 3階大会議室	生産技術研究所 総務・広報チーム TEL: 03-5452-6864/FAX: 03-5452-6071 URL: http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/
東京大学創立130周年記念事業特別展示 「遺丘と女神—メソポタミア原始農村の黎明」展	5月26日(土) ~9月2日(日) 月曜休館(月曜祝 日の場合は開館、 翌日休館) 10:00~17:00 (入館は16:30まで)	総合研究博物館 1階新館展示ホール	総合研究博物館 URL: http://www.um.u-tokyo.ac.jp/ (臨時休館の場合があるので、ホームページ要確認のこと)
総合研究博物館公開講座 「植物・動物・社会—西アジア考古学からみた ドメスティケーションの始まり」	6/12(火)、6/20(水) 6/26(火)、7/3(火) 7/10(火) 15:00~17:00	総合研究博物館 展示ルーム内講義室	総合研究博物館 TEL: 03-5777-8600/FAX: 03-5841-8451 E-mail: web-master@um.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.um.u-tokyo.ac.jp/education/lecture_200706.html

Contents

特集

- 02 環境安全本部、学内にAEDを配置！
—【保存版】 救急救命マニュアル—

NEWS

部局ニュース

- 08 海洋研究所
海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターにて海洋環境臨海実習が行われる
- 08 大学院教育学研究科・教育学部
教育学部附属中等教育学校で「学びの共同体」研究会行われる
- 09 気候システム研究センター
高数縁教授 第27回猿橋賞受賞、佐藤正樹准教授 2007年度日本気象学会賞受賞
- 10 大学院法学政治学研究科・法学部
寄付講座「政治とマスメディア」フォーラム「日本政治の可能性」、開催される

キャンパスニュース

- 10 学生部
『第59回東京大学・一橋大学対校競漕大会（東商戦）』開催される

コラム

- 11 インタープリターズ・バイブル Vol.4
- 12 Crossroad～産学連携本部だより～Vol.17
- 13 コミュニケーションセンターだより No.34
- 13 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第14回
- 14 調達本部です 第28回

INFORMATION

シンポジウム・講演会

- 14 大学院農学生命科学研究科・農学部
東京大学創立130周年記念事業
第32回東京大学農学部公開セミナー
- 15 大学院工学系研究科・工学部
「ナノフォトンクス総合的展開2007」
シンポジウム開催のお知らせ

お知らせ

- 15 大学院総合文化研究科・教養学部
「教養学部報」第503（6月6日）号の発行
—教員による、学生のための学内新聞—
- 16 情報基盤センター
“情報探索ガイダンス” 各種コース実施のお知らせ

訃報

- 17 丹羽 登 名誉教授

18 EVENT LIST

淡青評論

- 20 数学オリンピックと研究者養成

◆表紙写真◆

AED（自動体外式除細動器）本体とAED設置ステッカー
（2ページに関連記事）

編集後記

今回はAEDに関する特集でしたが、みなさんは実際に見かけたり講習会等で使ってみたことはありますか？ ちょうど1年前、附属病院でAEDの講習を受けましたが、キャンパス内にこんなに設置されていることを、今回、初めて知りました。日頃から意識していないと、身近にあっても意外と気づかないものですね。万が一の時に備えて、近くの設置場所を確認したり、講習会に積極的に参加してみたいかがでしょうか。（あ）



七徳堂鬼瓦

数学オリンピックと研究者養成

ゆとり教育や若年層の理科離れなどあまりいい話を聴かない中、数学においては将来の数学の研究をリードする一線級の人材ならば確保できていると思う。もちろん欲を言えばきりがないが、若い研究者のためのポストが確保できないことが大問題となっている現状を考えると十分すぎるのかもしれない。それは数学オリンピックの存在が大きいのではと思う。

数学オリンピックで要求される能力と研究者向けの能力は違うという批判がある。確かに必ずしも数学オリンピックのメダリストが数学者として成功するとは限らないと思う。しかしそれは甲子園の優勝投手がプロ野球で活躍するとは限らないのと同じ事ではある。何ととっても大きいのは、数学オリンピックを触媒にして数学好きの中高生やOB達の間ネットワークができてきていることである。

何年か前にJMO夏季セミナーという数学オリンピック財団後援の合宿に講師として呼ばれたことがある。感心したのは合宿はOBの大学生だけで運営されていたことである。数学オリンピック関係の合宿の中で夏季セミナーはオリンピック対策というわけではなく、大学レベルの数学・情報科学の専門書をOBたちが面倒を見ながら輪講したりするものであった。こういった交流は合宿だけに止まらず、高校生の後輩たちにOBが東大数理の図書室を案内したり、わりとオープンに参加できるような自主ゼミを運営したりしているようなことまでに及んでいる。私も学生の頃は同級生と自主ゼミは結構やったが、世代を越えてここまで大掛かりにはやらなかった。本当に素晴らしいことであり心強いことでもある。

数学は高度に発達した学問であり、東京大学が提供しているカリキュラムはそれだけでは研究者養成になど全然足りない。鉄は熱い内に打てというのが、やはり中高生の中から数学に打ち込むのが圧倒的に有利である。玉原セミナーハウスで地元の群馬県の高校数学コンクール優秀者向けのセミナーを数理科学では開催しているが、こういった活動を全国レベルに広げてほしいかもしれない。

松本 久義 (大学院数理科学研究科)

(淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1358 2007年5月30日
東京大学広報委員会

〒113-8654
 東京都文京区本郷7丁目3番1号
 東京大学総務部広報課
 TEL : 03-3811-3393
 e-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
<http://www.u-tokyo.ac.jp>